

<p>教育目標</p> <p>夢中になって遊び、心豊かにたくましく生きる力の基礎を培う</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月28日	高田 仁美
最終評価		

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、昨年度に引き続き、レジリエンスを育む保育をめざして、『ふれる』『やってみよう！』を大切に、身近な自然等、様々なもの・ことに自ら心を動かして関わる『つながる』先生や友達と一緒にいること、や一緒に活動することを喜び、楽しむ『ひびきあう』思いを出し合う中で、ぶつかる葛藤も経験しながら、協働的に遊びや生活を進めるをキーワードに子どもの姿を捉え、育ちを確かめながら、保育の充実をめざす。 ・保育の振り返りや、週案・指導案作成時に、担任だけでなく他の教職員等の意見も取り入れることで、より多面的な捉えの元、援助や環境構成ができるようにする。 ・保育の中での、子どもの育ちや環境や援助の工夫をエピソードで表し、共有したり育ちを確かめたりできるようにする。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○週末のミニ園内研修や、研究保育、エピソード研修などでの幼児理解や保護者の思いの理解を深め、教師の援助や環境構成を見直す。(園内研修の回数や事例の数など) ○保護者アンケート

- ・幼稚園生活の中で成長したと思われませんか
- ・各学年の発達に応じて、
 - ③歳児 園生活の中で「やってみたい！」思いがでてきていますか
 - ④歳児 友達への興味が高まってきていますか
 - ⑤歳児 友達の思いを感じたり、友達と一緒に活動したりしようとしていますか
- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでますか
- ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか
- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

中間評価

各種指標結果

○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。

月に2・3回のミニ園研・2か月に1～3回の園研を行っている。

各学年エピソードを作成し、研修を深めたが、複数回の実施が難しかった。

毎週の週案の反省・評価でも、テーマに沿った育ちの姿を挙げている。

○保護者アンケート（今回は88%の家庭から回答を得た）

・幼稚園生活の中で成長したと思われませんか

⇒97%(4・5歳児は100%)の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

・各学年の発達に応じて、

⇒具体的な育ちの姿を記入していただいた。その中で

3歳児『生活の自立』『遊び・思いの広がり』『幼稚園での安心安定』『先生や友達への関心』『自分力(自分で決めて動く)』

4歳児『相手の思いを感じて行動する』『言葉で伝える』『集団の中での安定』『やってみる・あきらめない気持ち』『生活力』

5歳児『自信・意欲・主体性』『達成感』『友達との共感・協働』『自立・責任感』『思いやりの心』

などの育ちを多くの保護者が実感されていた。

・夢中になって遊んでいると感じるときがありますか

⇒99%(4・5歳児は100%)の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか

⇒97%(4・5歳児は100%)の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

・体を動かして遊ぶことを楽しんでますか

⇒99%(4・5歳児は100%)の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか

⇒96%(5歳児は100%)の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか

⇒95%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

⇒97%(4歳児は100%)の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

自己
評

分析（成果と課題）

- ・ご回答いただいたすべての保護者の方が、子どもの成長を実感しておられる。『○○ができるようになった』と生活面や遊びの育ちだけでなく『楽しめるようになった』『考えられるよう

価	<p>になった』『感じられるようになった』など、心の育ちにも目を向けられている。</p> <p>○『身の回りのことが出来るようになる』『生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとする』などの項目についても、学年が上がるにつれ育ちの姿が見られる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○後期にも、さらに一人一人の子どもたちの育ちを支えられるように、教師や友達との様々な関わりを通して、『レジリエンス』の育ちを高めていけるような環境や援助構成に努める。</p> <p>○特に生活習慣や社会生活に必要なルールを身に付けていけるように、園でもさらにきめ細やかに一人一人の子どもの発達や“今”の姿に注目して、大切にしてサポートする。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。</p> <p>○保護者アンケート（項目は前期と同じ）</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の様子や行事などを参観する中でも、子どもたちが生き生きと活動し、集団の中で育ち合っていることが良く分かる。年長児としての自覚(自信と意欲)も感じられるようになった。 ・字が書けるなど、目に見える育ちではなく「思いが出せるようになる」などの心の育ちが感じられる。引き続きそれを大切に育んでもらいたい。 ・子どもが教職員に対して安心感を持ち、落ち着いて集団の中で過ごしていることが感じられる。引き続き、教職員間の連携を大切にしていってほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に、園児・児童の交流や連携の取組を進める。(新町小・西陣中央小) ・『みつばオープンスクール』の取組などを通して、幼児期の育ちや保育を、小中学校等にもわかりやすく発信する。 ・架け橋期(幼稚園)の指導計画の見直しを行い、小学校の『スタートカリキュラム』との連続性を高められるようにする。
(取組結果を検証する) 各種指標
○園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中での育ち

- オープンスクール（後期）やKKP（烏丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト）の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証
- 保護者アンケート

中間評価

各種指標結果

- 架け橋プログラム、KKPの取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証
 - ⇒教職員が積極的にKKPの研修に参加し、“非認知能力”という全校種で大切にしたい共通のテーマを元に話合ったことで、地域全体の子どもたちの姿や課題を共有し、保育に生かしている。
 - ⇒幼稚園の教員が、小学校との交流の中での園児や児童の思いや教育の良さを感じ、共有するように努めた。（実際に顔を合わせる機会がないときにはメールなどで共有した）
- 園児と児童の交流活動の取組とその中での育ち（新町小）
 - ⇒特別ではなく、日々の教育活動と結びついた活動内容となるように工夫したことで、双方が生き生きと活動でき、交流後の生活にもつながった。（運動的な活動での交流・参観）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・園の中だけでなく、KKPという地域ぐるみで、子どもの実態や課題を把握することができ、よりの確に援助の在り方を検討することができた。
- ・園児と児童の交流をその場限りで終わらすことなく、次の交流や行事に思いをつなぎ、交流での育ちが積み重なるように意識した。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後期に行う『オープンスクール』への参加を、さらに広く呼びかけ、教職員の学びを深める。
- ・実際の交流だけではなく、幼稚園から小学校へ、子どもの育ちを支えるための教師の援助や環境構成等をつなぐなど、育ちのつながりを支えるための架け橋プログラムを推進する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- オープンスクール・公開保育やKKP（烏丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト）の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証
- 園児と児童また地域の他の幼児教育施設との交流活動の取組とその中での育ちの検証

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

交流の回数を増やすことが目的ではなく、今の取組の中で、幼稚園での教師の援助や子どもの育ちを小学校での援助や育ちにつなげられるように、教師同士が対話的に交流していくことを大切にしたい。その中では「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」やそれぞれの学校・園目標につながるような、共通の視点で子どもの育ちを中心に話すことが大切である。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝登園時の様子、保育中の様子・健康状態や子ども同士の関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。 ・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>⇒早朝・通常保育終了後のどちらの預かり保育においても、参加する子どもの実態に応じて、日々の環境や活動などを、フレキシブルに再構成し、週案立案に生かしている。また日々の様子を担任や管理職と共有し、預かり保育だけでなく、通常保育での援助の在り方や活動内容にも生かしている。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか <p>⇒(利用している保護者の中の) 97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答</p>
--

自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育での子どもの姿を、担任やその他教職員と共有することで、多面的に一人一人の子どもの内面をとらえることができ、通常保育でも、よりの確な援助ができ、子どもの安定や自信につながる姿がみられる。 ・今年度は参加人数が多く、落ち着いて遊べる環境構成や発達に応じた支援などが必要になり、様々な工夫をしながら進めてきた。前期の体制作りについては、今年度を元に考えていく。 ・預かり保育での異年齢の関わりは通常保育にもつながり、園全体で学年を超えた育ち合いがみられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方々にさらに安心感をもっていただけるように、預かり保育での過ごし方・遊びの様子などを知らせる機会を作る。 ・みつばの森(運営協議会)や同志社大学生など、地域との交流も積極的に取り入れていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>○保護者アンケート(項目は前期と同じ)</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、利用者が例年より増えたことも、みつば幼稚園のこれからのニーズとして捉え、体制を作り、子どもの安心・安定と、子育て支援の場としての預かり保育の推進に努めてほしい。 ・預かり保育充実のため、『ミニ運動会』や『しおりづくり』をみつばの森主催で行っている。子どもも大人も本気で楽しめる企画を今後も続けていきたい。
---------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う ・就労などで園行事（始業式、終業式・参観・懇談・研修など）や誕生会後の『ほっこり子育て広場』などに参加することが難しい保護者へのフォローを丁寧に行う ・未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や、子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談の内容の充実を行う。 ・『満3歳児クラス』のさらなる充実に向けて、保護者のニーズも捉えながら、4学年を通しての育ちや発達の流れも見通し、保育や教育課程の見直しを行う。 ・ホームページ・Instagram掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・Instagramでの教育活動の発信 ○保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証 ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど)</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・Instagramでの教育活動の発信 ⇒Instagramなどのアップ数が増え、見てくださる方も増えている。</p> <p>○保護者との連携や情報発信の内容の検証 ⇒保育の充実には、保護者の方々との思いのやり取りや、同じ方向を向いて子どもたちを援助していくこと大切さが欠かせないことを、園全体で共有し取り組んできた。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ⇒93%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答 ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか（おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど） ⇒92%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者が、教職員に気軽に相談したり、園の様子を聞いたりされている実態がある。一方で話にくく感じておられる保護者に対してはこちらから働きかけていく。 ・SNS への発信は個人情報の流出防止や映像の取扱などに十分に配慮したうえで、必要な時に使用していく。子どもたちの生き生きとした楽しい様子と共に、保育の中で大切にしていることや、子どもの心の育ちについてもしっかりと発信していく。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との対話を大切に、園の様子や一人一人の子どもの育ちなどを伝えていく。（個人懇談、クラス懇談） ・引き続き、登降園時により多くの保護者の方々とのコミュニケーションを取れるようにし、対話の中で家庭と幼稚園をつないでいく。 ・保護者の方が、園に対して相談したい・喜びや不安を共有したいと思われたときには、担任だけでなく、管理職も含めてさらに誠意をもって対応できるようにする。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・Instagramでの教育活動の発信、その内容の検証</p> <p>○保護者アンケート（項目は前期と同じ）</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で非認知能力の育ちを支えていることなど、発信してもらうことで、みつば幼稚園の保育の良さが分かる。それを園児の保護者だけでなく、未就園児の保護者などにも発信していくことが大切である。その発信の仕方についても、様々な工夫ができるのではないかな。

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校などとの連携や交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者に案内し参加を呼び掛けたりする。 ・ 隣接する高齢者施設との交流（直接的・間接的）、地域の高齢の方々との親しみを深める。
（取組結果を検証する）各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り ○ 高齢者施設との交流の回数と、活動の振り返り ○ 保護者アンケート ・ 地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 上京中とは、運営協議会同士、教職員同士が深く連携したことで、体育大会での交流などが復活し、互いの意欲や自信につながる交流をすることが出来た。子どもの育ちを双方が感じ、翌年度以降にもつなげていくことの大切さを共通認識できた。 ○ 高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 思いや心の交流と共に、直接的な交流も、引き続き、実施していく ○ 保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 87%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（昨年度より 10%アップ） 5%・わからないと回答（昨年度より 10%ダウン） 昨年度に比べ、地域との交流の発信ができており、育ちを実感される保護者が増えている。
---------------	--

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者施設との直接的な交流の再開は、園児だけでなく保護者の方も、楽しみにされている。互いに安全管理（感染症など）をしながら進めていきたい。 ・ 地域の祭りなどに参加させてもらう中で、地域の方に『みつば幼稚園』をたいセルに思っただけだということも分かって、子どもたちにも保護者の方にもそれを伝えながら関わっている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期も施設側が（感染状況などを鑑みて）可能であれば1月に1回計画していく。 ・ 地域の方々が、保育の充実に貢献していただいていること、そして地域の方々との交流や行事参加の中で子どもたちの育ちを、わかりやすく、保護者の方々へ伝える努力を続ける。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り

	○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り ○保護者アンケート（項目は前期と同じ）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と中学校がつながるだけでなく、運営協議会同士がつながり、それを核にして地域がつながることができている。理想的な支援になっている。今後もそうあり続けたい。 ・小川学区住民だけでなく、みつば幼稚園の子どもたちに対しては、広く地域行事への参加の門戸が開かれている。また、幼稚園を巻き込むことで地域の祭りの活性化にもつながっている。地域の温かい思いを子どもたちにも保護者の方にも感じてもらいたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>働きがいを感じながら、管理職も含めたすべての教職員の超過勤務時間を削減し、年休等の取得率を上げる</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教職員が『働き方改革』+『働きがい改革』の意義を理解し、常に意識して業務を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○業務の中で、時間をかけて行うものと効率化を図るもののメリハリをつける。 ○『勤務時間削減』と『保育や研修の充実』『保育者としてのやりがい向上』に向けた具体的に工夫した点を明らかにする。 ・保護者の方々や地域の方々にも『働き方改革』の意義をお知らせし、ご理解いただく。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の超過勤務時間の推移 ・年休や特休の取得率

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率 ⇒教職員全体の勤務時間数は減少している。 年休・特休などの取得率は高い。(管理職が低いのは課題) 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期（行事前等）により、勤務時間の超過傾向がみられることがある。 保育の充実のためにやむを得ない時期もあることを考慮し、日常の保育の業務の取り組み方の工夫をさらに重ね、メリハリのある働き方を推進する。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週単位や月単位でさらに見直しをもって、保育の準備や提出物作成などを計画的に行う。 ・共有するだけで良いこと、相談すべきこと、を明確にし、効率的に会議を行う。 ・業務の分担を行い、それぞれの教職員がさらに助け合って業務が行えるようにする。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の充実のための『働き方改革』であるので、地域行事への教職員の参加の仕方なども見直していくことに賛成である。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>